

UNIDOL における評価の特徴と勝敗について

武井 美樹

本研究は、UNIDOL で優勝・上位入賞するチームの定量的な特徴とは何なのか、明らかにすることを目的とする。ダンスにおける評価は、審査員や観客の主観的な印象に依存する傾向がある。評価の特徴を理解し、効率的な選曲や練習方法などを検討することで、より高い評価を得るパフォーマンスの実現を目指す。

UNIDOL とは大学対抗の女子大生によるアイドルコピーダンスの大会のことである。ここでのアイドルコピーダンスとは、既存のアイドルの楽曲の振り付けを完全に真似て踊ることを意味する。2012 年に始まったこの大会は、年々規模を大きくしており、近年では約 3000 人を収容する会場で全国大会が開催されている。また、「推し活」がブームとなっている昨今、大会規模の拡大と共に、UNIDOL の注目度は高まっており、今後もより発展していくと考えられる。ここで、大会の発展と共に、評価基準が明確になっていることが重要である。例えば、スポーツかつダンスに近い要素を持つフィギュアスケートの評価は技術点と演技構成点から成る。また、2024 年のパリオリンピックで新種目となったブレイキンの場合、フィギュアスケートの基礎点のように明確な点数が公表されている訳ではないが、演技を構成する要素や技がある。しかし、UNIDOL の審査員の審査基準は明確になっていない。「ダンス」「表現力」「個性」「演出」「魅了度」の 5 つが審査項目として挙げられているが、アイドルコピーダンスにはオリンピック競技のように、決まった技や型がある訳ではないため、具体的にどのような点が評価されるのか不明である。

研究手法として、まず、現在の審査項目を考慮せずに演技の中で数値化できる要素のリストを作成した。同時に、過去の大会映像を 90 個選択し、ダンス経験者に採点してもらった。機械学習で数値化できる要素の中から採点結果と関係のある項目を抽出した。最後に、実際の大会の評価と乖離があるかどうかの精度を調べた。

まず、特徴量として、各曲目における全員が同じ振り付けを踊る時間や、ステージを広く使い横に広がる回数、イントロや曲間の長さ、全員が同じ又は異なる振り付けを踊る時間や回数、衣装替えの有無とタイミング、ステージを広く使う時間などがある。次に 2018 年から 2024 年までの UNIDOL の大会より、全国 3 位以上の上位 30 個、全国大会 4 位以下の中位 30 個、地方予選敗退の下位 30 個の演技を選択し、点数に影響があると考えられる定量的な特徴を抽出した。XGBoost を用いて、ある演技が上位 20%になるかならないかを予測した。その結果、平均予測精度 0.86 が得られた。そして、UNIDOL の演技の評価に最も有用である特徴量は、「2 曲目に全員が同じ振り付けを踊る時間の分散」であり、次いで「1 曲目に全員が同じ振り付けを踊る時間の平均」「演技最初のイントロの時間」「1 曲目の時間」の重要度が高いことを明らかにした。

(指導教員 真榮城 哲也)